

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	公民	科目	政治・経済	単位	3	単
対象コース	カレッジ (AC)	コース	対象クラス	3 年	1 組	
使用教科書	高等学校 現代政治・経済 新訂版 (清水書院)					
使用副教材	最新政治・経済資料集新版2020 (第一学習社) ニューコンパスノート政治経済2020 (とうほう)					

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

広い視野からの観察を通して、人間社会の複雑さ・厳しさを理解して欲しい。とりわけ私たちの日常生活と関わりの深い政治経済を深く理解することによって、そこから人生を主体的に生きてゆくための判断基準を各自が構築して欲しいと思う。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

人間社会は、互いの理解のもとで発展してきたのと同時に、各個人は独自の希望や夢を持ち、それを実現したいと思っている。政治および経済の制度が生まれたのは、人類の歴史がこのような対立・抗争に明暮れたのが要因であると言っても過言ではない。反面、人類の歴史は、対立・抗争を回避しつつ、個々夢や希望を実現可能にする政治・経済の制度の構築を目指してきた歴史であることを理解する。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

テキストを使って学習する。大事な箇所を埋めてゆく形式のものだが、授業の中で取り上げられる重要な箇所を判断し、工夫しながら書き込みをして欲しい。適宜小テストも実施する。

(2) 家庭

日々の社会事象（政治・経済の動き）に関心を持って欲しい。新聞やニュースなどからの情報は、身近モノとして記憶に残りやすいものである。また、原則として毎日課される復習プリントに取り組む事で知識を確実に定着させて欲しい。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

- | | |
|--------------|---|
| (1) 定期考査 | 年5回実施する。 |
| (2) 授業への取り組み | 授業中の積極的な発言、テキストへの書き込みがどれだけなされているか。
基本的な授業態度が守られているか。 |
| (3) 課題 | 毎日の復習プリント、小テスト |

評価における定期考査の割合

70 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

授業を通じて社会を構成する基本的なきまりを理解しようとしているか。
積極的に発言し、質問を出すことができるか。

(2) 思考・判断

グラフや表を授業内容と関連させて読み取ることができるか。

(3) 技能・表現

得た知識をもとに社会問題を考察し、その内容を発表できるか。
また他者の発表を聞き、自らの意見を発展させることができるか。

(4) 知識・理解

定期考査の得点から、基本事項をどれだけ理解しているか。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CH
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	〇△
1	4	第3章 日本経済のあゆみと現状 2. 中小企業の現状と問題   3. 環境をめぐる問題   4. 消費者をめぐる問題   5. 農業をめぐる問題	- 日本経済の活動に関して企業という観点でとらえ、大企業の動きについての特徴と課題を理解する。また日本経済を支える中小企業の活動と、それに対する政策について理解し、持続可能な社会づくりのために。 - 高度経済成長の影で、四大公害訴訟を代表例とする産業公害が発生していることを理解させる。公害問題が環境問題へと変化していく過程に気付かせるとともに、その問題に対して、過去から現在まで、私達や日本・世界各国はどのような取り組みをしていたのか理解させる。また人間は多くの他の生物や地球環境そのものと共存していかなければならないことを深く理解させ、道徳的な観点から環境問題を捉えさせる。道徳教育の実施。 - 消費者の権利を守るための制度や機能について理解し、企業や政府、さらには消費者の責任について考えさせる。消費者問題が多様化・複雑化している現在において、消費者一人一人がどのように行動していけばいいのか考えさせる。 - 高度経済成長以降の日本の農業政策の変遷を理解させる地お供に、その政策が取られた背景には何があるのか考えさせる。日本の農業を取りまく国際環境や食糧安全保障の観点から日本の農業の問題点を理解させると共に、日本の農業のあるべき姿について考えさせる。	○	○	○	○	
	5	第4章 労働と社会保障 1. 労働基本権と労働運動   2. 今日の雇用問題と労働条件   3. 社会保障の成立と進展  	- 憲法における労働基本権の保障と、労働三法の基本的な内容を体系的に理解させ、社会権的基本権としての意義を実感させる。労働基準法については法令を参考に具体的に学習する。 - 高度経済成長期に形成された日本独特の雇用慣行の特徴を理解し、近年の雇用形態の変化について理解する。また、日本の労働条件に関する変化の特徴を掴み、合わせて国際的な比較によりその問題点を考える。労働者を取り巻く環境を、日本だけでなく諸外国の状況も考慮しながら考察する。 - 社会保障制度の成立と発展過程を学習し、我が国の社会保障制度の基本理念と枠組みを理解する。また、1970年代以降の財政危機や少子高齢化を背景に、福祉見直し論と政策の転換がすすめられ、政府の「制度改革」と「規制緩和」により個人の自助努力、家族、地域の負担がより求められていることを理解する。	○		○	○	
	6	第5章 世界経済と日本 1. 国際分業と貿易の利益 2. 外国為替と国際収支のしくみ 3. グローバル化の進展と国際経済 4. アジア経済と南北問題  5. 国際経済における日本の役割 	- 相互依存関係がより強まっている国際経済を貿易面から捉え、国際分業の必要性を比較生産費説通じて確認する。 - 国際収支の基本的な仕組みを理解し国際経済関係が緊密化した今日、国際収支の均衡に努めることが重要な政策課題であることを理解する。 - 経済のグローバル化が進んでいる状況を、国際資本移動などの金融活動や多国籍企業の活動を通じて理解する。また、ヨーロッパ・アメリカにおいて見られる地域的経済統合の動きと経済の活性化について理解しその現象の原因を比較・考察する。 - 南北問題が、発展途上国の自助努力や先進国の援助や協力にもかかわらず依然として解決されないのは何故かを考察する。また、経済的な理由だけでなく、道徳的な観点からも南北問題に積極的に取り組むことは先進国の重要な役割であることを理解させる。 - 戦後の国際経済の基盤となったIMF・GATT体制が確立される背景と、それぞれの目的について理解する。また、国際通貨体制の動向を概観しその原因と国際経済に与える影響を考えさせる。	○		○	○	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか					重視する評価の観点				CHE
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	〇	△
2 3	7～	6. 環境と人口    	・地球環境問題に関しては、国際社会全体の取り組みや協力が不可欠である。代表的な国際会議やそこで合意された事項について理解すると共に、日本は国際社会の中でどのような対応や役割が求められているかを考える。他者への配慮、協力の必要性から、道徳教育を実施する。	○		○	○		
		共通テスト・二次・私大 対策問題演習							

立

活
基

現
け
の

自

な
、

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	公民	科目	政治・経済	単位	2	単1
対象コース	カレッジ (C)	コース	対象クラス	3 年	3文系 組	
使用教科書	高等学校 現代政治・経済 新訂版 (清水書院)					
使用副教材	最新政治・経済資料集新版2020 (第一学習社) ニューコンパスノート政治経済2020 (とうほう)					

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

広い視野からの観察を通して、人間社会の複雑さ・厳しさを理解して欲しい。とりわけ私たちの日常生活と関わりの深い政治経済を深く理解することによって、そこから人生を主体的に生きてゆくための判断基準を各自が構築して欲しいと思う。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

人間社会は、互いの理解のもとで発展してきたのと同時に、各個人は独自の希望や夢を持ち、それを実現したいと思っている。政治および経済の制度が生まれたのは、人類の歴史がこのような対立・抗争に閉幕されたのが要因であると言っても過言ではない。反面、人類の歴史は、対立・抗争を回避しつつ、個々夢や希望を実現可能にする政治・経済の制度の構築を目指してきた歴史であることを理解する。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

テキストを使って学習する。大事な箇所を埋めてゆく形式のものだが、授業の中で取り上げられる重要な箇所を自ら判断し、工夫しながら書き込みをして欲しい。単元によってはレポートを課す場合もある。

(2) 家庭

日々の社会事象 (政治・経済の動き) に関心を持って欲しい。新聞やニュースなどからの情報は、身近モノとして記憶に残りやすいものである。また、単元ごとに課す復習プリントに取り組む事で、知識を実に定着させて欲しい。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

- | | |
|--------------|---|
| (1) 定期考査 | 年5回実施する。 |
| (2) 授業への取り組み | 授業中の積極的な発言、テキストへの書き込みがどれだけなされているか。
基本的な授業態度が守られているか。 |
| (3) 課題 | 単元ごとに課す復習プリントやレポート及びその発表への取り組み。 |

評価における定期考査の割合

70 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

授業を通じて社会を構成する基本的なきまりを理解しようとしているか。
積極的に発言し、質問を出すことができるか。

(2) 思考・判断

グラフや表を授業内容と関連させて読み取ることができるか。

(3) 技能・表現

得た知識をもとに社会問題を考察し、その内容を発表できるか。
また他者の発表を聞き、自らの意見を発展させることができるか。

(4) 知識・理解

定期考査の得点から、基本事項をどれだけ理解しているか。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CH
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	〇
1	4	第3章 日本経済のあゆみと現状 2. 中小企業の現状と問題   3. 環境をめぐる問題   4. 消費者をめぐる問題   5. 農業をめぐる問題	- 日本経済の活動に関して企業という観点でとらえ、大企業の動きについての特徴と課題を理解する。また日本経済を支える中小企業の活動と、それに対する政策について理解し、持続可能な社会づくりのために何が必要かを考察する。 - 高度経済成長の影で、四大公害訴訟を代表例とする産業公害が発生していることを理解させる。公害問題が環境問題へと変化していく過程に気付かせるとともに、その問題に対して、過去から現在まで、私達や日本・世界各国はどのような取り組みをしていたのか理解させる。また人間は多くの他の生物や地球環境そのものと共存していかなければならないことを深く理解させ、道徳的な観点から環境問題を捉えさせる。道徳教育の実施。 - 消費者の権利を守るための制度や機能について理解し、企業や政府、さらには消費者の責任について考えさせる。消費者問題が多様化・複雑化している現在において、消費者一人一人がどのように行動していけばいいのか考えさせる。 - 高度経済成長以降の日本の農業政策の変遷を理解させる地お供に、その政策が取られた背景には何があるのか考えさせる。日本の農業を取りまく国際環境や食糧安全保障の観点から日本の農業の問題点を理解させると共に、日本の農業のあるべき姿について考えさせる。	○	○	○	○	
	5	第4章 労働と社会保障 1. 労働基本権と労働運動   2. 今日の雇用問題と労働条件   3. 社会保障の成立と進展  	- 憲法における労働基本権の保障と、労働三法の基本的な内容を体系的に理解させ、社会権的基本権としての意義を実感させる。労働基準法については法令を参考に具体的に学習する。 - 高度経済成長期に形成された日本独特の雇用慣行の特徴を理解し、近年の雇用形態の変化について理解する。また、日本の労働条件に関する変化の特徴を掴み、合わせて国際的な比較によりその問題点を考える。労働者を取り巻く環境を、日本だけでなく諸外国の状況も考慮しながら考察する。 - 社会保障制度の成立と発展過程を学習し、我が国の社会保障制度の基本理念と枠組みを理解する。また、1970年代以降の財政危機や少子高齢化を背景に、福祉見直し論と政策の転換がすすめられ、政府の「制度改革」と「規制緩和」により個人の自助努力、家族、地域の負担がより求められていることを理解する。	○		○	○	
	6	第5章 世界経済と日本 1. 国際分業と貿易の利益 2. 外国為替と国際収支のしくみ 3. グローバル化の進展と国際経済 4. アジア経済と南北問題  5. 国際経済における日本の役割 	- 相互依存関係がより強まっている国際経済を貿易面から捉え、国際分業の必要性を比較生産費説通じて確認する。 - 国際収支の基本的な仕組みを理解し国際経済関係が緊密化した今日、国際収支の均衡に努めることが重要な政策課題であることを理解する。 - 経済のグローバル化が進んでいる状況を、国際資本移動などの金融活動や多国籍企業の活動を通じて理解する。また、ヨーロッパ・アメリカにおいて見られる地域的経済統合の動きと経済の活性化について理解しその現象の原因を比較・考察する。 - 南北問題が、発展途上国の自助努力や先進国の援助や協力にもかかわらず依然として解決されないのは何故かを考察する。また、経済的な理由だけでなく、道徳的な観点からも南北問題に積極的に取り組むことは先進国の重要な役割であることを理解させる。 - 戦後の国際経済の基盤となったIMF・GATT体制が確立される背景と、それぞれの目的について理解する。また、国際通貨体制の動向を概観しその原因と国際経済に与える影響を考えさせる。	○		○	○	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか					重視する評価の観点				CHE
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	〇	△
2 3	7～	6. 環境と人口    	・地球環境問題に関しては、国際社会全体の取り組みや協力が不可欠である。代表的な国際会議やそこで合意された事項について理解すると共に、日本は国際社会の中でどのような対応や役割が求められているかを考える。他者への配慮、協力の必要性から、道徳教育を実施する。	○		○	○		
		共通テスト・二次・私大 対策問題演習							

立

活
基

現
掛け
の

な
確

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	公民	科目	倫理	単位	3	単位
対象コース	カレッジコース	コース	対象クラス	3	年	3 組
使用教科書	高校倫理 新訂版 (実教出版株式会社)					
使用副教材	高校倫理《新訂版》演習ノート (実教出版株式会社)					

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか
自分の人生や人間そのものについて、あるいは人間の住む世界について思索を深め、自分なりのしっかりとした生き方を発見し、他人と共によく生きるためには、常識だけでなく、常識を基礎にしながらさらに筋の通ったものの見方、考えを確立する必要がある。そこで、先人の倫理や哲学に関する思索の成果についてその基本的な事柄を学び、自分の課題を解決していく力を身につけて欲しい。
学習内容：この科目で学習する大まかな内容
倫理の持つ意味を考え、人間の生き方・在り方を共に学び、お互いが共同し協力し理解し合える社会を作るためにどうすればいいのか。その解決の糸口を見出すために、先哲の思想に触れ、現代社会に生きる我々の道標を発見する。
学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか
(1) 学校 サブノート（倫理ノート）を使って学習する。大事な箇所を埋めてゆく形式のものだが、板書以外の重要なところを自ら判断し書き込んで欲しい。
(2) 家庭 新聞やニュースなどからの情報に関心を持ち、日々の社会事象を原因と結果という両面から捉えて欲しい。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか
(1) 定期考査 年4回実施する。
(2) 授業への取り組み 授業中の積極的な発言、および教科書、サブノートへの書き込み。 定期的実施する小テスト。
(3) 長期休暇中の課題 授業内容の復習プリントの提出。
評価における定期考査の割合
70 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか
(1) 関心・意欲・態度 人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と自己の確立に努める実践的意欲を持つと共に、これらに関わる諸課題を探究する態度を身につけ、人間としての在り方・生き方について自覚を深めようとしているかどうか。
(2) 思考・判断 生きる主体としての自己の確立のために広く課題を見出し、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究すると共に、良識ある公民としての広い視野に立って主体的かつ公正に判断しているかどうか。
(3) 技能・表現 青年期における自己形成や人間としての在り方・生き方などに関する資料を様々なメディアを通して収集し、その中から有用な情報を主体的に選択することができるかどうか。
(4) 知識・理解 青年期における自己形成や人間としての在り方などに関わる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身につけようとしているかどうか。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	4	第1編 青年期の課題と人間の自覚 第1章 青年期の課題と自己形成 第1節 青年期の意義	・「第2の誕生」「マージナルマン」等を学習し、青年期特有の不安を、客観的に理解する。	○	○	○	○	
		第2節 青年期の課題 道徳	・青年期の課題を、アイデンティティの確立として捉え、生涯にわたる自己確立の視点を持つ。〈道徳教育を実施〉	○	○	○	○	
		第2章 凶間としての自覚 第1節 ギリシア思想 1 自然哲学とソフィスト 16 平和と公正をすべての人に	・古代ギリシアの自然哲学の誕生を通じて、理性的人間観と合理的世界観の成立を理解する。	○	○	○	○	
		2 ソクラテス	・知的探求が善く生きることと一体であるという、ソクラテスの哲学的精神の意義を理解する。	○	○	○	○	
		3 プラトン	・理想主義であるイデア論の特徴を理解し、理性の役割や「哲人政治」の意義について考える。	○	○	○	○	
		4 アリストテレス	・アリストテレスの自然観、および道徳論、国家論の、現実主義的な特徴を理解する。	○	○	○	○	
		5 ヘレニズム時代の思想	・自然との一致を願う個人主義が、世界市民の自覚や自然法の観念を生んだことを理解する。	○	○	○	○	
		第2節 キリスト教 1 旧約聖書	・キリスト教の形成を学習し、厳格な道徳意識に立つ一神教の特徴を理解する。	○	○	○	○	
		2 イエス 道徳	・神の愛アガペーと隣人愛の意義を考える。	○	○	○	○	
		3 キリスト教の誕生と展開	・イエス＝キリストの信仰の成立を学習し、パウロやアウグスティヌスの人間観を理解する。	○	○	○	○	
		第3節 イスラーム	・キリスト教とイスラームの思想的な関係を理解し、イスラーム共同体の意義を考える。	○	○	○	○	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
		第4節 仏教 1 仏教以前の思想  2 ブッダの教え  3 大乘仏教の成立	・ 仏教が自己形成の実践であることを理解する。 ・ ブッダの縁起説や無我の法について学習し、西洋思想とは異なる仏教の世界観や人間観の特徴を考える。 ・ 仏教の成立とアジアへの伝播を学習し、日本思想の伝統となる大乘仏教の特徴を理解する。	○	○	○	○	
		第5節 田国思想 1 「道」の自覚  2 儒家思想の展開 3 老荘思想	・ 孔子の説く人倫の道の特徴を理解し、漢字文化圏に共通する家族主義道徳について理解する。 ・ 儒教的人間観および世界観の特徴を理解する。 ・ 老荘思想の「道」の捉え方を理解し、禅仏教の文化に通じる文明批判について考える。	○	○	○	○	
		第6節 芸術と人生 第3章 日本人としての自覚 第1節 古代日本人の思想 1 日本人の生活と自然観  2 日本人の宗教観・道徳観	・ 日本の風土とその中で育まれた日本人の自然観の特徴、日本文化の基層を理解する。 ・ 原日本文化の複合的性格や、アニミズムの宗教文化の特徴を理解する。	○	○	○	○	
		第2節 日本の仏教思想 1 仏教の受容 2 仏教の日本的展開 3 仏教と日本文化	・ 外来宗教である仏教の移入と展開について学習し、神仏習合のあり方を考える。 ・ 鎌倉新仏教の宗教思想の特徴を理解する。また親鸞や道元に共通する、日本人の人生態度について考える。 ・ 仏教的な伝統文化や美意識の形成を理解する。	○	○	○	○	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
		第3節 近代日本の思想						
		1 儒教の受容と朱子学	・ 外来宗教である儒教の受容と展開について学習し、伝統文化をなす儒教道徳の特徴を理解する。	○	○	○	○	
		2 日本陽明学	・ 朱子学を批判して陽明学を説いた中江藤樹の思想を理解する。	○	○	○	○	
		3 日本的儒学の形成	・ 日本独自の儒学として古学の思想を学習する。	○	○	○	○	
		第4節 近世日本の思想						
		1 民衆の思想	・ 朱子学に基づく江戸思想の多様な展開を理解する。	○	○	○	○	
		2 国学の形成	・ 古学から国学への展開と、国学による独自文化の特徴を学習し、近代日本の在り方を考える。	○	○	○	○	
		3 幕末の思想	・ 洋学の展開と西洋に対する「和魂洋才」の態度について学習する。	○	○	○	○	
		第5節 西洋思想の受容と展開						
		1 啓蒙思想と自由民権思想	・ 福沢諭吉や中江兆民の思想とその軌跡を学習し、日本近代化の課題について考える。	○	○	○	○	
		2 キリスト教の受容	・ 内村鑑三の思想形成を通して、日本近代化の課題について考える。	○	○	○	○	
		3 国家主義の台頭と社会主義思想	・ 国家主義の台頭や初期社会主義の展開を通じて、日本近代化の課題について考える。	○	○	○	○	
		4 近代的自我の確立	・ 夏目漱石の文学や大正デモクラシーの展開を学習し、日本近代化の課題について考える。	○	○	○	○	
		5 近代日本哲学の成立と超国家主義	・ 独創的な西田哲学や和辻倫理学の形成と、近代化の挫折としてのファシズムについて考える。	○	○	○	○	
		6 多様な文化と共生の課題	・ 柳田国男らの自文化理解の在り方を学習し、国際社会における日本文化の可能性を考える。	○	○	○	○	
		第2編 現代と倫理						
		第1章 現代の特質と倫理的課題						
		第1節 科学技術の発達と 現代文明の危機	・ 現代の科学技術文明が危機に直面し、社会が新しい倫理問題に直面していることを理解する。	○	○	○	○	
		第2節 民主主義と国際化の課題	・ 個人の自由と管理社会との拮抗、国際化と伝統文化の摩擦等、現代特有の課題を理解する。	○	○	○	○	
		第3節 人間としての課題	・ 個人・私人・公人としての問題領域の差異を理解し、現代における公共性の在り方を考える。	○	○	○	○	
		道徳 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを 16 平和と公正をすべての人に						

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK	
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×	
		第2章現代に生きる人間の倫理							
		第1節人間の尊厳							
		1ルネサンス		・ルネサンス人文主義が、近代の人間中心主義ヒューマニズムへと展開したことを理解する。	○	○	○	○	
		2宗教改革		・宗教改革が個人の自由を原理とする西欧近代社会形成の重要な契機となったことを理解する。	○	○	○	○	
		3人間性の探求		・モラリストの思想と理性主義へのパスカルの批判を考える。	○	○	○	○	
		第2節科学・技術と人間							
		1近代の自然観		・近代科学および機械論的自然観の特徴を理解する。	○	○	○	○	
		2新しい知性—経験論と合理論		・近代科学の発展に大きな影響を与えたベーコンとデカルトの思想の特徴を理解する。	○	○	○	○	
		第3節民主社会と自由の実現							
		1民主社会の形成		・民主社会を形成する基本原理を、自然法思想や社会契約論の展開から理解する。	○	○	○	○	
		2人格の尊厳		・自律を人格の尊厳の根拠とするカントの思想を学習し、近代の人間尊重の精神を理解する。	○	○	○	○	
		3歴史と自由		・ヘーゲルの弁証法的な物の見方、および弁証法の論理に基づく「人倫」の捉え方を理解する。	○	○	○	○	
		第4節社会と自己							
		1個人と社会との調和		・功利主義思想の特徴を理解し、功利主義と民主主義との関係や、個性の自由について考える。	○	○	○	○	
		2社会の改善と知性の役割		・プラグマティズムの思想の特徴を理解する。	○	○	○	○	
		3社会の構造と変革		・社会主義思想およびマルクスの人間観・社会観を学習し、現代の精神的貧困について考える。	○	○	○	○	
		4主体性の自覚		・キルケゴールの単独者やニーチェの超人の思想を学習し、主体的自己の確立について考える。また実存主義を学習し、自由な内面的自己を確立する意義と、人類に責任を負う生き方を考える	○	○	○	○	
		第5節人間への新たな問い							
		1理性の深層への反省		・理性中心主義を批判するフロイトなどの人間観を学習し、近代合理主義の課題を考える。	○	○	○	○	
		2言葉への反省		・言葉が現代思想の主要な主題であることを理解する。	○	○	○	○	
3理性の働きへの反省		・フランクフルト学派を学習し、自然と人間を道具化する文明について考える。	○	○	○	○			
4異質なもののまなざし		・西欧優位の文明に対する構造主義の批判を学習し、差異が共生し合う社会の重要性を理解する。	○	○	○	○			
第6節社会参加と幸福									
1生命への畏敬と非暴力の思想		・シュバイツァーの生命への畏敬、ガンディーの非暴力主義の現代的意義を理解し、ロールズの正義論から「法と正」を考える。	○	○	○	○			
2生きがいと社会参加		・自己実現と幸福について考え、ボランティア活動等を通じた社会的連帯の意義を理解する。	○	○	○	○			

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
		第3章現代の諸課題と倫理						
		第1節生命の倫理	生命倫理や環境倫理に関わる課題追求学習に取り組む。	○		○	○	
		第2節環境の倫理	個人の自己決定の自由について考える。	○		○	○	
		第3節家族・地域社会の課題	家族と地域社会に直面する課題について考える。	○		○	○	
		第4節高度情報化社会の課題	情報化社会の現状について考える。	○		○	○	
		第5節異文化理解の課題	異文化理解や平和の課題を考える。	○		○	○	

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	地理歴史科	科目	地理 B		単位
対象コース	カレッジ・S C 理系	コース	対象クラス	3 年	2, 3組
使用教科書	新詳地理 B (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)				
使用副教材	20 サクシード地理 (啓隆社) ゼロからわかる地理 B (学研プラス)				

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

- (1) 私達の世界は、どのような資源や産業の生産活動により成立しているのでしょうか。そして、その生産活動は、どのようなのでしょうか。資源・産業に関する知識を深め、今までの変化、これからの変化を読み取る力を身につけて下さい。
- (2) 私達の世界は、さまざまな指標を用いることにより、さまざまな地域に区分されています。指標である自然・産業・人種知識を深め、地域の特色及び地域間に共通するもの・相違するものを把握する力を身につけて下さい。
- (3) 私達の世界の現在と未来を正しく把握するために、情報を集める力・情報を分析する力を身につけて下さい。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

- (1) 農業・林業・水産業→各産業の特色、特色ある生産地域、生産量・輸出入量の特色について学びます。
- (2) エネルギー資源・鉱産資源→各産業の特色、特色ある生産地域、生産量・輸出入量の特色について学びます。
- (3) 工業→工業の発達、工業の立地・移動、世界の工業地域の分布・特色、日本の工業地域の分布・特色について学びます。
- (4) 交通・通信・貿易・商業・観光業→交通機関・通信手段の特色、貿易構造、商業の形態、観光業の特色について学びます。
- (5) 人口・村落・都市→人口の分布・構成・移動・問題、村落と都市の立地・種類、都市の発達・機能・問題について学びます。
- (6) 生活文化・民族・宗教・国家→生活文化の特色、人種と民族の分類・問題、国家と国家群の種類、領土問題について学びます。
- (7) 地誌→今までの学習のまとめとして、各国の自然・産業・生活文化などについて学びます。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

授業では、先生の説明に大切な内容が含まれています。「自分でも大切だと思った内容」を追加してノートに書き込みましょう。また、学んだ知識を活用する・わかりやすく伝える・友達と話し合うことを通して、さまざまな考えを深めるようにしましょう。

(2) 家庭

- ① 復習は必要です。授業で理解できなかった用語や内容はその日のうちに教科書などで確認しておきましょう。
- ② 新聞やテレビのニュースを必ず見ましょう。問題を解く際に力強い味方になります。常識で解ける問題もあります。
- ③ 模試の見直しの際、模範解答の解説書を熟読し、「正解の根拠・地図や統計読解のテクニック」を理解し覚えましょう。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

- (1) 定期考査→年4回の定期考査は、授業の学習内容から出題します。
- (2) 発表→授業内容がしっかり理解できているか発表してもらいます。
- (3) 春休み・夏休みの課題→予習・復習用の課題です。休み明けに確認テストを行い、理解度を評価します。
- (4) 地図・統計資料の課題→地図・統計資料を用いた各種作業を行い、作業内容の理解度や正確さを評価します。
- (5) 協働学習への関わり方→意見を伝え、意見を聞き、意見をまとめるなど協働学習への関わり方を確認します。

評価における定期考査の割合

70 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

授業における発言、課題や作業への取り組みが積極的であり、地理への関心を深め授業内容を進んで理解しようとしているのかに、課題や作業の提出状況と内容を見ます。また、協働学習に対する取り組む姿勢を見ます。

(2) 思考・判断

授業の各分野において、単に用語を暗記するだけではなく、地図や統計資料を用いての発展的な課題に対し、解答を見つけること。また、協働学習において、意見交換を通して自分の意見を進化させているかを見ます。

(3) 技能・表現

新聞やテレビで得た情報を、地理の学習内容に結びつけることができるか。また、授業の内容理解にどのような資料を用い、どのような技能を見ます。また、協働学習における意見の伝え方（表現力）も見ます。

(4) 知識・理解

授業で学んだ自然環境・産業・資源について、基本的な用語や説明内容を正しく理解し、「ある地域の特色や地域間の共通性な地理的な見方や考え方が身についているか見ます。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評	
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思
1	4	第3節 工業の発展と立地 (1) 近代工業の発展 (2) 工業立地 (3) 工業立地分類 (4) 工業の立地移動 第4節 ヨーロッパの工業 (1) 工業地帯の成立 (2) 各国の工業の特色 ① イギリス ② フランス ③ スペイン・オランダなど ④ スウェーデン ⑤ ドイツ ⑥ スイス・イタリア ⑦ ポーランド・チェコ 第5節 アングロアメリカの工業 (1) アメリカ合衆国 (2) カナダ 第6節 ロシア及び周辺諸国の工業 (1) 社会主義国としてのソ連経済 (2) ソ連崩壊後のロシアの経済 (3) 工業地域 第7節 アジアの工業 (1) 工業発展の過程 (2) 韓国 (3) 中国 (4) 香港 (5) 台湾 (6) シンガポール (7) インド 第8節 その他の国々の工業 (1) オーストラリア (2) メキシコ (3) ブラジル 第9節 日本 (1) 工業の発展 (2) 主な工業地域 (3) 工業都市 第2編 地域開発と環境問題 第1節 世界の地域開発 (1) アメリカ合衆国 (2) 各国の地域開発 第2節 日本の総合開発 第3節 地球規模の環境問題	① マニファクチュア・蒸気機関・工場制機械工業を学びます。 ① 立地因子・立地条件・ウェーバーの工業立地論を学びます。 ① 原料指向型・市場指向型・電力指向型・臨海指向型を学びます。 ① アメリカ合衆国の綿工業の例・鉄鋼業の例を学びます。 ① 内陸地域から臨海地域への移動・ブルーバナナを学びます。 ① ランカシャー・ブラックカントリー・北海油田を学びます。 ① ダンケルク・マルセイユ・トゥールーズを学びます。 ① ビルバオ・ロッテルダム・ユーロポートを学びます。 ① キルナ・エリヴァレ・イエーデボリを学びます。 ① ライン川・ルール炭田・ガストアルバイターを学びます。 ① 工業の三角地帯・第三のイタリア・パノーニ計画を学びます。 ① シロンスク炭田・グダンスク・ボヘミアを学びます。 ① 工業地域（ニューイングランド・五大湖沿岸など）を学びます。 ② 工業地域の変貌（サンベルト・フロストベルト）を学びます。 ① トロント・モントリオール・ヴァンクーヴァーを学びます。 ① 計画経済・コンビナート方式・コンプレックスを学びます。 ① 市場経済・エネルギー資源の開発・BRICSを学びます。 ① ロシア（アンガラバイカル工業地域など）を学びます。 ② ウクライナ（ドニエプル工業地域など）を学びます。 ③ アゼルバイジャン（バクー工業地域など）を学びます。 ④ カザフスタン（カラガンダ工業地域など）を学びます。 ⑤ ウズベキスタン（中央アジア工業地域など）を学びます。 ① 輸入代替型工業・輸出指向型工業・輸出加工区を学びます。 ① 朝鮮戦争・漢江の奇跡・プサン・ポハン・ウルサンを学びます。 ① 文化大革命・改革開放政策・世界の工場・郷鎮企業を学びます。 ② 工業地域（東北・華北・華中・華南）・経済特区を学びます。 ① カオルン半島・ホンコン島・中継貿易港・一国二制度を学びます。 ① カオシュン・タイペイ・シンチューを学びます。 ① ジュロン工業地域を学びます。 ① ジャムシェドプル・ムンバイ・バンガロールを学びます。 ① 工業都市（シドニー・メルボルン・ブリズベン）を学びます。 ① マキラドーラ・NAFTA・メキシコシティを学びます。 ① サンパウロ・リオデジャネイロ・ベロオリゾンテを学びます。 ① 富国強兵・殖産興業・富岡製糸場・八幡製鉄所を学びます。 ② 特需・太平洋ベルト・円高・エレクトロニクス産業を学びます。 ③ 工業地域（京葉・京浜・東海・中京・阪神など）を学びます。 ■ 第1回定期考査 ① TVA・ニューディール政策・フーヴァーダムを学びます。 ① ボルガ＝ドン運河・DVC・サンメンシャダムを学びます。 ① 特定地域総合開発計画・新産業都市・定住圏構想を学びます。	●	●
	5			●	●

- (1) 熱帯林の破壊
- (2) 砂漠化
- (3) 酸性雨
- (4) オゾン層破壊
- (5) 地球温暖化
- (6) 環境問題への国際的取り組み
- (7) 日本の環境問題
- (8) 環境保護の取り組み

- ①焼畑農業・放牧地の拡大・アグロフォレストリーを学びます。
- ①サヘル・過放牧・過耕作・塩害を学びます。
- ①硫黄酸化物・硫酸酸化物・森林の枯死・湖沼の酸性化を学びます。
- ①フロンガス・オゾンホール・紫外線・皮膚ガンの増加を学びます。
- ①温室効果ガス・海面の上昇・モルディブ・環境税を学びます。
- ①かけがえのない地球・持続可能な開発・京都議定書を学びます。
- ①足尾銅山鉱毒事件・四大公害・公害対策基本法を学びます。
- ①ナショナルトラスト運動・エコツーリズムを学びます。

6

第2部 人類諸集団の系統地



第1章 人口問題 第1節 人口分布と人口構成

- (1) 世界の人口の分布
- 第2節 さまざまな人口問題
- (1) 日本
- (2) スウェーデン
- (3) 中国

- ①エクメーネ・寒冷限界・乾燥限界・高距限界を学びます。
- ②自然増加・社会増加・人口爆発・マルサスを学びます。
- ③人口転換・多産多死・多産少死・少産少死を学びます。
- ③人口ピラミッド（ピラミッド型・釣鐘型など）を学びます。
- ①華僑・ガストアルバイター・ヒスパニック・屯田兵を学びます。
- ①ベビーブーム・団塊の世代・合計特殊出生率を学びます。
- ①福祉国家・社会保障・少子化対策・育児休暇を学びます。
- ①13億の人口・一人っ子政策・小皇帝・黒孩子・を学びます。
- ①高齢化社会・合計特殊出生率・少子化などを学びます。

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか

重視する評

学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思
7	7	第2章 人種・民族問題と生活文化 第1節 人種と民族 (1) 人種 (2) 人種問題 (3) 民族 第2節 言語 (1) 言語の分類 (2) 複数言語の国家 第3節 宗教 (1) 世界宗教 (2) 民族宗教 第4節 民族問題 (1) 民族紛争 (2) 世界の民族紛争 第5節 民族の共生 (1) 難民 (2) 民族の共生 第6節 世界の衣食住 (1) 衣服の文化 (2) 食文化 (3) 住まいの文化	①モンゴロイド・ネグロイド・コーカソイドを学びます。 ①アパルトヘイト・WASP・白豪主義・多文化主義を学びます。 ①多民族国家・単一民族国家を学びます。 ①インド＝ヨーロッパ語族・シナ＝チベット語族を学びます。 ①フラマン語・ワロン語・ケベック州・ブミブトラ政策を学びます。 ①カトリック・プロテスタント・イスラム教・仏教を学びます。 ①ヒンドゥー教・シーク教・ユダヤ教・儒教・道教を学びます。 ①植民地分割・民族領域を学びます。 ①シンハリ人・シオニズム運動・チェチェン・フツ族を学びます。 ①パレスチナ難民・インドシナ難民・UNHCRを学びます。 ①マイノリティ・多文化主義・公用語を学びます。 ①チマ＝チョゴリ・アオザイ・サリー・ボンチョを学びます。 ①ナン・チャパティ・チューニョ・食物禁忌・ハラルを学びます。 ①日干しレンガ・ゲル・パオ・イグルー・高床式住居を学びます。 ■ 第2回定期考査 ①属領・東テ ①主権・領土・領海・領空・国民・排他的経済水域を学びます。 ①君主国・共和国・単一国家・連邦国家・複節国を学びます。	●	●

2	8	第3章 現代世界の国家と国家群 第1節 国家 (1) 国家 (2) 国家の3要素 (3) 国家の分類 (4) 国際連合 第2節 国境と領有権問題 (1) 国境 (2) 国境紛争及び領有権問題 第3節 国家間の結びつき (1) 先進国間の協力関係 (2) 地域的・経済的な協力関係 第4章 村落・都市 第1節 村落 (1) 村落の立地 (2) 村落の形態 (3) 村落の発達（日本） 第2節 都市 (1) 都市の立地 (2) 都市の発達の歴史 (3) 日本の都市の発達 (4) 都市の形態 (5) 都市の中心地機能 (6) 機能による都市の分類 第5章 都市化と居住・都市問題 第1節 都市の発達と機能 (1) 都市化 (2) 都市の地域分化 第2節 世界の都市・居住問題	①ニューヨーク・安全保障理事会・国際司法裁判所を学びます。 ①自然的国境（河川など）・人為的国境（経緯線など）を学びます。 ①カシミール地方・南沙群島・竹島・尖閣諸島を学びます。 ①NATO・ブリュッセル・OECDを学びます。 ①EFTA・EU・NAFTA・ASEAN・APECを学びます。 ①新田集落・納屋集落・輪中集落を学びます。 ①塊村・円村・列村・路村・街村・宿場町・屯田兵村を学びます。 ①条里集落・名田百姓村・豪族屋敷村・隠田百姓村を学びます。 ①平野・海洋・河川・湖沼などにおける立地を学びます。 ①囲郭都市・ボリス・要塞都市・ハンザ同盟・首都を学びます。 ①市場町・港町・門前町・寺内町・城下町・宿場町を学びます。 ①直交路型・放射環状型・放射直交型・迷路型を学びます。 ①商圈・三大都市圏・広域中心都市・政令指定都市を学びます。 ①生産都市・交易都市・消費都市の代表例を学びます。 第5章 都市化と居住・都市問題 第1節 都市の発達と機能 (1) 都市化 (2) 都市の地域分化 第2節 世界の都市・居住問題 (1) 大都市における都市・居住問題 (2) 先進国の都市・居住問題 (3) ニューヨークの住み分けと再開発 (4) 発展途上国の都市問題 (5) メキシコシティの都市問題	
---	---	---	---	---

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか

重視する評

学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思
2		(1) 大都市における都市・居住問題 (2) 先進国の都市・居住問題 (3) ニューヨークの住み分けと再開発 (4) 発展途上国の都市問題 (5) メキシコシティの都市問題 第3節 都市計画 (1) 都市計画 (2) ロンドンの都市計画 (3) パリの都市計画 (4) 東京の都市計画	①スラム・スクォッター・ブライメイトシティを学びます。 ①ドーナツ化現象・スプロール現象・インナーシティを学びます。 ①ウォール街・ハーレム・ジェントリフィケーションを学びます。 ①ストリートチルドレン・インフォーマルセクターを学びます。 ①交通渋滞・大気汚染・スモッグを学びます。 ①アメニティ・一掃型・修復保全型を学びます。 ①田園都市・レッチワース・大ロンドン計画・職住近接を学びます。 ①セーヌ川・シテ島・ラ＝デファンス・マレ地区を学びます。 ①臨海副都心・都心部への人口回帰を学びます。 ①中心業務地区・中心商店街・問屋街・副都心などを学びます。 ①同心円モデル・扇形モデル・多核心モデルなどを学びます。		
		  第2編 変化する現代世界の地理的事象 第1章 世界の交通・通信 第1節 交通機関の発達 (1) 原始的な交通	    ①リニア・パリ・パナマ・ヤカ・ニカラ・トナカイを学びます		

		(1) 原始的交通 (2) 近代交通の発達 (3) 日本における交通の発達 第2節 交通機関の特徴 (1) 航空交通 (2) 水上交通 (3) 鉄道交通 (4) 自動車交通 (5) パイプライン 第3節 通信技術の発達 (1) 様々な通信技術 (2) 情報社会と問題点 第2章 世界の貿易 第1節 産業の国際化 (1) 国際分業の成立 (2) 貿易の形態 (3) 産業のグローバル化	①ウヤマ・アルハガ・ヤフ・フツ・トノカイを学びます。 ①蒸気機関・フルトン・内燃機関・ライト兄弟を学びます。 ①新幹線・リニアモーターカー・時間距離を学びます。 ■ 第3回定期考査 ①ハブ空港・路線別輸送量・関西国際空港を学びます。 ①コンテナ・LNG・便宜置籍船・国際運河・国際海峡を学びます。 ②内陸水路交通・ライン川・ドナウ川・ミシシッピ川を学びます。 ①ICE・TGV・ユーロスター・パークアンドライドを学びます。 ①アウトストラダデルソーレ・トランスアマゾニアンを学びます。 ①ドルジバパイプライン・ペトロラインを学びます。 ①インテルサット・ランドサット・GPSを学びます。 ①デジタルディバイド・セキュリティ・著作権を学びます。 ①冷凍船・フェアトレード・南北問題・南南問題を学びます。 ①自由貿易・保護貿易・貿易摩擦を学びます。 ①グローバル化・多国籍企業・産業の空洞化を学びます。 ①IMF・GATT・IBRD・ドル危機・WTOを学びます。 ①加工貿易・FTA・EPA・セーフガードを学びます。 ①ODA・JICA・海外青年協力隊・NGOを学びます。	
9		第2節 現代世界の貿易 (1) 貿易の拡大と変化 (2) 日本の貿易 (3) 日本の経済協力 第3章 行動空間の拡大 (1) 行動圏の変化 (2) 現代のサービス (3) 新しい消費形態と問題 (4) 余暇活動の拡大	①カード社会・クレジットカード・製造物責任法を学びます。 ①余暇時間・バカンス・リゾート・グリーンツーリズムを学びます。 ◎ 共通テストに向けての問題演習 ◎ 共通テストに向けての問題演習 ■ 第4回定期考査 ◎ 共通テストに向けての問題演習	

3 单位

うな変化を遂げるので
重・民族・国家に関する

ト。
キす。
バます。

○

○

--

をみます。そのため

とができるのかを見ま

のように活用するのが

どをとらえる」という

評価の観点		CHECK
技	知	○△×
●	●	
●	●	
●	●	
●	●	
●	●	
●	●	
●	●	
●	●	

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい



SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



●	●	
●	●	
価値の観点	CHECK	
技 知	○△×	
●	●	
		●

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



●	●	
●	●	
評価の観点	CHECK	
技 知	○△×	
●	●	

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所にコピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



道徳



1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	公民	科目	政治・経済	単位	2	単位
対象コース	情報ビジネス・美術	コース	対象クラス	3 年	4, 5, 6 組	
使用教科書	高等学校 現代政治・経済 新訂版 (清水書院)					
使用副教材	最新政治・経済資料集新版2020 (第一学習社) ニューコンパスノート政治経済2020 (とうほう)					

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか 広い視野からの観察を通して、人間社会の複雑さ・厳しさを理解して欲しい。とりわけ私たちの日常生活と関わりの深い政治経済を深く理解することによって、そこから人生を主体的に生きてゆくための判断基準を各自が構築して欲しいと思う。
学習内容：この科目で学習する大まかな内容 人間社会は、互いの理解のもとで発展してきたのと同時に、各個人は独自の希望や夢を持ち、それを実現したいと思っている。政治および経済の制度が生まれたのは、人類の歴史がこのような対立・抗争に明け暮れたのが要因であると言っても過言ではない。反面、人類の歴史は、対立・抗争を回避しつつ、個々の夢や希望を実現可能にする政治・経済の制度の構築を目指してきた歴史であることを理解する。
学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか (1) 学校 テキストを使って学習する。大事な箇所を埋めてゆく形式のものだが、授業の中で取り上げられる重要な箇所を自ら判断し、工夫しながら書き込みをして欲しい。 (2) 家庭 日々の社会事象（政治・経済の動き）に関心を持って欲しい。新聞やニュースなどからの情報は、身近なものとして記憶に残りやすいものである。また、長期休業中に課される復習プリントに取り組む事で、知識を確実に定着させて欲しい。

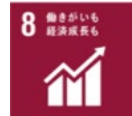
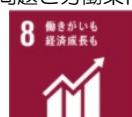
3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか	
(1) 定期考査	年5回実施する。
(2) 授業への取り組み	授業中の積極的な発言、テキストへの書き込みがどれだけなされているか。 基本的な授業態度が守られているか。
(3) 課題	長期休業中の復習プリント、必要に応じて課す提出物。
評価における定期考査の割合	
70	%

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか (1) 関心・意欲・態度 授業を通じて社会を構成する基本的なきまりを理解しようとしているか。 積極的に発言し、質問を出すことができるか。 (2) 思考・判断 グラフや表を授業内容と関連させて読み取ることができるか。 (3) 技能・表現 得た知識をもとに社会問題を考察し、その内容を発表できるか。 また他者の発表を聞き、自らの意見を発展させることができるか。 (4) 知識・理解 定期考査の得点から、基本事項をどれだけ理解しているか。
--

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	4	第2章 金融と財政のしくみ 1. 金融のしくみとはたらき  	・金融に関する基礎知識を理解させると同時に、マネーストックと金融政策の意義を把握させる。	○		○	○	
	5	2. 財政のしくみとはたらき    	・財政規模の拡大に伴う、国民経済に果たす財政活動の意義と、財政政策の重要性、今日の財政改革の課題を理解する。社会における租税の役割と社会の一員として納税の義務を果たすことの重要性を理解させる。	○	○	○	○	
	6	第3章 日本経済のあゆみと現状 1. 日本経済の変化  	・戦前、及び戦後の経済復興から、現代に至るまでの日本経済のあゆみを、それぞれの時期の特徴を踏まえながら理解させる。また、現代の日本経済の実態と抱えている諸課題を、これまでの経緯や背景を含めて理解させると共に、持続可能な社会を形成するために日本経済をどのように発展させていくべきか考察させる。	○	○		○	
		2. 中小企業の現状と問題  	・日本経済の活動に関して企業という観点でとらえ、大企業の動きについての特徴と課題を理解する。また日本経済を支える中小企業の活動と、それに対する政策について理解し、持続可能な社会づくりのために。	○	○	○	○	
		3. 環境をめぐる問題  	・高度経済成長の影で、四大公害訴訟を代表例とする産業公害が発生していることを理解させる。公害問題が環境問題へと変化していく過程に気付かせるとともに、その問題に対して、過去から現在まで、私達や日本・世界各国はどのような取り組みをしていたのか理解させる。また人間は多くの他の生物や地球環境そのものと共存していかなければならないことを深く理解させ、道徳的な観点から環境問題を捉えさせる。道徳教育の実施。	○		○	○	
2	7	4. 消費者をめぐる問題  	・消費者の権利を守るための制度や機能について理解し、企業や政府、さらには消費者の責任について考えさせる。消費者問題が多様化・複雑化している現在において、消費者一人一人がどのように行動していけばいいのか考えさせる。	○		○	○	
		5. 農業をめぐる問題  	・高度経済成長以降の日本の農業政策の変遷を理解させる地お供に、その政策が取られた背景には何があるのか考えさせる。日本の農業を取りまく国際環境や食糧安全保障の観点から日本の農業の問題点を理解させると共に、日本の農業のあるべき姿について考えさせる。	○		○	○	
	8	第4章 労働と社会保障 1. 労働基本権と労働運動  	・憲法における労働基本権の保障と、労働三法の基本的な内容を体系的に理解させ、社会権の基本権としての意義を実感させる。労働基準法については法令を参考に具体的に学習する。	○		○	○	
	9	2. 今日の雇用問題と労働条件  	・高度経済成長期に形成された日本独特の雇用慣行の特徴を理解し、近年の雇用形態の変化について理解する。また、日本の労働条件に関する変化の特徴を掴み、合わせて国際的な比較によりその問題点を考える。労働者を取り巻く環境を、日本だけでなく諸外国の状況も考慮しながら考察する。	○	○		○	
		3. 社会保障の成立と進展  	・社会保障制度の成立と発展過程を学習し、我が国の社会保障制度の基本理念と枠組みを理解する。また、1970年代以降の財政危機や少子高齢化を背景に、福祉見直し論と政策の転換がすすめられ、政府の「制度改革」と「規制緩和」により個人の自助努力、家族、地域の負担がより求められていることを理解する。	○	○	○	○	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
3	10	第5章 世界経済と日本 1. 国際分業と貿易の利益	・相互依存関係がより強まっている国際経済を貿易面から捉え、国際分業の必要性を比較生産費説通じて確認する。	○			○	○
		2. 外国為替と国際収支のしくみ	・国際収支の基本的な仕組みを理解し国際経済関係が緊密化した今日、国際収支の均衡に努めることが重要な政策課題であることを理解する。	○	○			○
		3. グローバル化の進展と国際経済	・経済のグローバル化が進んでいる状況を、国際資本移動などの金融活動や多国籍企業の活動を通じて理解する。また、ヨーロッパ・アメリカにおいて見られる地域的経済統合の動きと経済の活性化について理解しその現象の原因を比較・考察する。	○			○	○
	11	4. アジア経済と南北問題 	・南北問題が、発展途上国の自助努力や先進国の援助や協力にもかかわらず依然として解決されないのは何故かを考察する。また、経済的な理由だけでなく、道徳的な観点からも南北問題に積極的に取り組むことは先進国の重要な役割であることを理解させる。	○	○		○	○
		5. 国際経済における日本の役割 	・戦後の国際経済の基盤となったIMF・GATT体制が確立される背景と、それぞれの目的について理解する。また、国際通貨体制の動向を概観しその原因と国際経済に与える影響を考えさせる。	○				○
	12	6. 環境と人口   	・地球環境問題に関しては、国際社会全体の取り組みや協力が不可欠である。代表的な国際会議やそこで合意された事項について理解すると共に、日本は国際社会の中でどのような対応や役割が求められているかを考える。他者への配慮、協力の必要性から、道徳教育を実施する。	○			○	○
	1～	まとめの問題演習						

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	地歴・公民科	科目	日本史B			単位	4	単
対象コース	A C 文系・C 文系	コース	対象クラス	3	年	1、3 文組		
使用教科書	山川出版社 詳説日本史B							
使用副教材	第一学習社 最新日本史図表 三訂版							

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

日本の歴史が、ひとり日本人の自発的・内発的な力によって形成されてきたのではなく、原始・古代・中世においては中国・朝鮮との政治的・文化的関係のなかで、近代・現代史においては国際社会のなかで形成されてきたことを考えていきます。正しい知識や相対的な思考力を身に付け、「歴史をみる眼」（社会的な見方・考方）を持つことによって、昨今の国際情勢の激変、それにともなう日米関係や国内の政治・経済・教育の変化、さらには地域社会の変化に対して、客観的な判断力を持ってもらいたいです。なお、主体的・対話的で深い学びを実現するために、生徒の自主性を引き出し、能動的に取り組ませる課題解決型のアクティブ・ラーニングを取り入れた授業も展開していきます。また、SDGsの達成、「持続可能な社会の創り手」の育成、道德教育のため、ESDを行います。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

- ①原始・古代史は、日本の歴史が主に中国・朝鮮との政治的・文化的関係を通して形成されてきたことを学びます。
- ②中世史・近世史は、平安末期に誕生した在地領主制が、やがて集権的な織豊政権・徳川政権（幕藩領主制）へ変化していったことを学びます。
- ③近代史は、後発資本主義国としての日本が歩んだ歴史を、対外戦争や議会政治、産業革命などと関連させて学びます。
- ④現代史は、戦後の冷戦下で、アメリカの国際的な戦略のなかに位置づけられた日本の歴史を、政党政治や国民の民主化運動、高度経済成長などを中心に学びます。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

- ①授業で説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、授業の流れを把握すること。
- ②授業にかかわる部分についてワーク等の掲載図表や授業で配布する諸資料の読解を行うこと。

(2) 家庭

- ①授業で教わった内容の復習を毎日欠かさず行うこと。
- ②各単元毎に問題プリントを宿題として課すので、必ず解答して提出すること。
- ③模擬試験直前に過去問（進研・全統など）を宿題として配付する場合があるので、提出すること。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

- ①定期考査：年4回の定期考査（授業の内容から）。
- ②宿題：問題プリントを各単元ごとに配布するので、解答して提出。
- ③授業への取り組み：積極的な発言、グループでの話し合い・発表、テキストの書き込み・マーカーなど、基礎的な作業。
- ④提出物：定期考査毎に授業用テキストの回収とテスト直しを提出。長期休業中に出されるテーマに沿ったレポートの提出。

評価における定期考査の割合

70 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

日本の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度、また多面的・多角的な考え方や深い理科を通して、日本だけでなく他国の文化を理解・尊重することの大切さを習得しているか。

(2) 思考・判断

日本の歴史の諸事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、相互の関連や現在への継承性などに着目し、概観などを活用して多面的・多角的に考察したり、課題を把握して解決できる力を習得しているか。

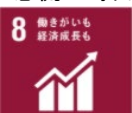
(3) 技能・表現

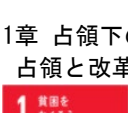
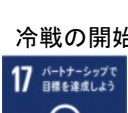
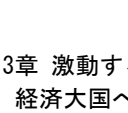
諸資料から日本の歴史に関する様々な情報（資料集・webなど）を適切かつ効果的に調べまとめ、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論し発信できる力を技能を習得しているか。

(4) 知識・理解

日本の歴史に関わる諸事象について基礎的知識を用語として習得するとともに、世界（特にアジア）における地理的条件と関連づけながら総合的にとらえて理解しているか。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHE
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	〇△
1	4	第9章 近代国家の成立 1. 開国と幕末の動乱	①日米和親条約と日米修好通商条約の内容と、その後の貿易について理解させる。 ②幕末の政局を、特に長州藩・薩摩藩の動向を中心にして理解させる。	●	●		●	
		2. 明治維新と富国強兵	①幕府の滅亡から維新政府の成立過程を、廃藩置県・地租改正・徴兵令などに注目しながら理解させる。	●	●	●	●	
	5	3. 立憲国家の成立と日清戦争 	①征韓論争後の自由民権運動の流れと、それを抑圧する薩長藩閥政府の動向を理解させる。 ②明治憲法の制定と初期議会について、日清戦争と関連させながら理解させる。	●	●		●	
		【第1回考査】						
	6	4. 日露戦争と国際関係 	①立憲政友会の成立にいたる藩閥政府と民党の接近について理解させる。 ②日露戦争およびその後の韓国併合と満州地域への進出過程を理解させる。		●		●	
		5. 近代産業の発展  	①日清戦争と日露戦争を契機にして起こった産業革命について、軽工業・重工業を明確に区別して理解させる。 ②労働組合や社会主義政党の発展と、それに対する政府の弾圧政策を理解させる。		●	●	●	
	7	6. 近代文化の発達  	①日清戦争・日露戦争前後の国権論の伸長について理解させる。 ②教育の国家主義化の流れを段階的に理解させる。 ③明治文学・芸術の各分野について、当時の日本人の精神・思想の変化と関連させながら理解させる。	●	●		●	
		第10章 二つの世界大戦とアジア						
	7	1. 第一次世界大戦と日本  	①第一次護憲運動や米騒動に果たした大衆運動、および原内閣の積極政策を理解させる。 ②第一次世界大戦を契機にした中国・ソ連への進出、大戦景気について理解させる。	●	●		●	
		2. ワシントン体制 	①ワシントン体制下の幣原協調外交について理解させる。 ②第二次護憲運動以後の政党政治、「憲政の常道」について理解させる。	●	●		●	
2	7	3. 市民生活の変容と大衆文化  	①大正デモクラシーを支えた思想・文化について理解させる。 ②大正文学、特に反自然主義やプロレタリア文学について理解させる。	●	●		●	
		【第2回考査】						
3	7	4. 恐慌の時代 	①大正時代以後の戦後恐慌・震災恐慌・金融恐慌について、段階的に理解させる。 ②協調外交と強硬外交の変遷を、政党政治・軍部の動向と関連させながら理解させる。		●		●	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか					重視する評価の観点				CHE
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○	△
2	8	5. 軍部の台頭 	①満州事変後の関東軍の暴走、および国内における国家改造運動、国際連盟脱退に関連させながら理解させる。 ②世界恐慌後の高橋是清蔵相の積極財政について理解させる。 ③二・二六事件後の陸軍の勢力拡大について理解させる。	●	●		●		
	9	6. 第二次世界大戦    	①日中戦争後の中国への進出、総力戦、統制経済について理解させる。 ②ドイツ・イタリアとの同盟とアメリカの経済制裁に関連させながら太平洋戦争の開始の背景を理解させる。 ③戦時下の国民生活の崩壊、アジア・太平洋地域への侵略の実態（従軍慰安婦、中国・朝鮮人の強制連行や徴兵制など）について理解させる。 ④沖縄戦、学徒出陣について理解させる。 ⑤広島・長崎への原爆投下について、連合国軍や国内の軍部の動向と関連させ、さらには戦後の日本と国際政治を見通して理解させる。		●		●		
		第11章 占領下の日本 1. 占領と改革  	①GHQの占領下での民主化・非軍国主義化、経済の混乱状況について理解させる。 ②日本国憲法の制定過程とその意義について、アメリカの対アジア戦略やGHQの動向と関連させながら理解させる。		●		●		
	10	2. 冷戦の開始と講和 	①冷戦の激化とアジアへの社会主義勢力の浸透、および占領政策の転換に関連させながら理解させる。 ②吉田茂内閣のもとで主権回復・安保条約調印がなされた意味を理解させる。	●	●		●		
		第12章 高度成長の時代 1. 55年体制 	①デタント、多極化という国際政治の変遷のなかで日本が歩んだ過程を理解させる。 ②55年体制下での保守安定政権、日米同盟の確立と高度経済成長、沖縄復帰に関連させながら理解させる。		●		●		
		2. 経済復興から高度成長へ  	①アメリカ主導のIMF体制下で、日本が経済復興を遂げていった過程を理解させる。 ②高度成長の功罪について、消費革命・エネルギー革命、四大公害訴訟を中心に理解させる。 ③田中角栄政権以後の日中関係、「小さな政府」化の動きを理解させる。	●	●		●		
		第13章 激動する世界と日本 1. 経済大国への道  	①ベトナム戦争によるアメリカ経済の悪化、ニクソン＝ショック後のIMF体制の崩壊、石油ショックなど国際経済の動向を理解させる。 ②第1次石油危機を契機に安定成長に転じたことを理解させる。 ③田中角栄政権以後の日中関係、「小さな政府」化の動きを理解させる。	●	●		●		
				●	●		●		
				●	●		●		
				●	●		●		

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか					重視する評価の観点				CHE
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○	△
2	10	2. 冷戦の終結と日本社会の動揺  	①冷戦の終結と、それが国際政治や国内政治へ与えた影響について理解させる。 ②55年体制の崩壊の背景を、自民党による長期安定政権による腐敗構造と関連させながら理解させる。 ③現在でも平成不況が続くなか、今後、日本あるいは生徒個人が歩むべき方向についてともに考える。	●	●		●		
	11	【第3回考査】							
	12	■大学受験へ向けての問題演習	①大学入学共通テストで満点、難関私大で80～90点まで得点できるレベルまで指導する。 ②授業での問題演習と合わせて、個人添削指導により個々のレベルに応じた対応をする。	●	●		●		
3	1	【第4回考査】	③大学入学共通テスト終了後は、国公立前期試験。難関私大用の歴史用語・頻出資料を追加指導する。	●	●		●		
	2		④個々の生徒の受験校の過去問分析から、受験日までのやるべき内容の確認を行い、あわせて個別指導を行う。	●	●		●		

【SDGsの各ターゲットについて】
ちょっとだけ詳しく内容を知りたい方は、アイコンをクリック



【道徳教育について】
高校の道徳教育についてちょっとだけ知りたい方は
アイコンをクリック

道徳

※FSVに接続してる場合のみ

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーしてご使用下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン

道徳

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	地歴・公民科	科目	日本史B		単位	3	単
対象コース	情報ビジネス	コース	対象クラス	3	年	5	組
使用教科書	山川出版社 詳説日本史B						
使用副教材	第一学習社 最新日本史図表 三訂版						

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

日本の歴史が、ひとり日本人の自発的・内発的な力によって形成されてきたのではなく、原始・古代・中世においては中国・朝鮮との政治的・文化的関係のなかで、近代・現代史においては国際社会のなかで形成されてきたことを考えていきます。正しい知識や相対的な思考力を身に付け、「歴史をみる眼」（社会的な見方・考方）を持つことによって、昨今の国際情勢の激変、それにともなう日米関係や国内の政治・経済・教育の変化、さらには地域社会の変化に対して、客観的な判断力養ってもらいたいと思います。なお、主体的・対話的で深い学びを実現するために、生徒の自主性を引き出し、能動的に取り組ませる課題解決型のアクティブ・ラーニングを取り入れた授業も展開していきます。また、SDGsの達成、「持続可能な社会の創り手」の育成、道德教育のため、ESDを行います。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

- ①原始・古代史は、日本の歴史が主に中国・朝鮮との政治的・文化的関係を通して形成されてきたことを学びます。
- ②中世史・近世史は、平安末期に誕生した在地領主制が、やがて集権的な織豊政権・徳川政権（幕藩領主制）へ変化していったことを学びます。
- ③近代史は、後発資本主義国としての日本が歩んだ歴史を、対外戦争や議会政治、産業革命などと関連させて学びます。
- ④現代史は、戦後の冷戦下で、アメリカの国際的な戦略のなかに位置づけられた日本の歴史を、政党政治や国民の民主化運動、高度経済成長などを中心に学びます。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

- ①授業で説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、授業の流れを把握すること。
- ②授業にかかわる部分についてワーク等の掲載図表や授業で配布する諸資料の読解を行うこと。

(2) 家庭

- ①授業で教わった内容の復習を毎日欠かさず行うこと。
- ②各単元毎に問題プリントを宿題として課すので、必ず解答して提出すること。
- ③模擬試験直前に過去問（進研・全統など）を宿題として配付する場合があるので、提出すること。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

- ①定期考査：年4回の定期考査（授業の内容から）。
- ②宿題：問題プリントを各単元ごとに配布するので、解答して提出。
- ③授業への取り組み：積極的な発言、グループでの話し合い・発表、テキストの書き込み・マーカーなど、基礎的な作業。
- ④提出物：定期考査毎に授業用テキストの回収とテスト直しを提出。長期休業中に出されるテーマに沿ったレポートの提出。

評価における定期考査の割合

70 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

日本の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度、また多面的・多角的な考えや深い理科を通して、日本だけでなく他国の文化を理解・尊重することの大切さを習得しているか。

(2) 思考・判断

日本の歴史の諸事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、相互の関連や現在への継承性などに着目し、概観などを活用して多面的・多角的に考察したり、課題を把握して解決できる力を習得しているか。

(3) 技能・表現

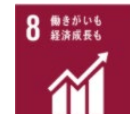
諸資料から日本の歴史に関する様々な情報（資料集・webなど）を適切かつ効果的に調べまとめ、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論し発信できる力を技能を習得しているか。

(4) 知識・理解

日本の歴史に関わる諸事象について基礎的知識を用語として習得するとともに、世界（特にアジア）における地理的条件と関連づけながら総合的にとらえて理解しているか。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHE
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	〇△
1	4	第9章 近代国家の成立 1. 開国と幕末の動乱	①日米和親条約と日米修好通商条約の内容と、その後の貿易について理解させる。 ②幕末の政局を、特に長州藩・薩摩藩の動向を中心にして理解させる。	●	●		●	○
		2. 明治維新と富国強兵 	①幕府の滅亡から維新政府の成立過程を、廃藩置県・地租改正・徴兵令などに注目しながら理解させる。	●	●	●	●	○
	5	3. 立憲国家の成立と日清戦争 	①征韓論争後の自由民権運動の流れと、それを抑圧する薩長藩閥政府の動向を理解させる。 ②明治憲法の制定と初期議会について、日清戦争と関連させながら理解させる。	●	●		●	○
		4. 日露戦争と国際関係 	①立憲政友会の成立にいたる藩閥政府と民党の接近について理解させる。 ②日露戦争およびその後の韓国併合と満州地域への進出過程を理解させる。		●	●	●	○
		5. 近代産業の発展   【第1回考査】	①日清戦争と日露戦争を契機にして起こった産業革命について、軽工業・重工業を明確に区別して理解させる。 ②労働組合や社会主義政党の発展と、それに対する政府の弾圧政策を理解させる。		●	●	●	○
		6. 近代文化の発達  	①日清戦争・日露戦争前後の国権論の伸長について理解させる。 ②教育の国家主義化の流れを段階的に理解させる。 ③明治文学・芸術の各分野について、当時の日本人の精神・思想の変化と関連させながら理解させる。	●	●	●	●	○
	6	第10章 二つの世界大戦とアジア 1. 第一次世界大戦と日本  	①第一次護憲運動や米騒動に果たした大衆運動、および原内閣の積極政策を理解させる。 ②第一次世界大戦を契機にした中国・ソ連への進出、大戦景気について理解させる。	●	●		●	△
		2. ワシントン体制 	①ワシントン体制下の幣原協調外交について理解させる。 ②第二次護憲運動以後の政党政治、「憲政の常道」について理解させる。	●	●		●	△
	7	3. 市民生活の変容と大衆文化  	①大正デモクラシーを支えた思想・文化について理解させる。 ②大正文学、特に反自然主義やプロレタリア文学について理解させる。	●	●		●	△
		4. 恐慌の時代  【第2回考査】	①大正時代以後の戦後恐慌・震災恐慌・金融恐慌について、段階的に理解させる。 ②協調外交と強硬外交の変遷を、政党政治・軍部の動向と関連させながら理解させる。		●		●	△

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHE
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△
2	8	5. 軍部の台頭 	①満州事変後の関東軍の暴走、および国内における国家改造運動、国際連盟脱退に関連させながら理解させる。 ②世界恐慌後の高橋是清蔵相の積極財政について理解させる。 ③二・二六事件後の陸軍の勢力拡大について理解させる。	●	●		●	△
	9	6. 第二次世界大戦   	①日中戦争後の中国への進出、総力戦、統制経済について理解させる。 ②ドイツ・イタリアとの同盟とアメリカの経済制裁に関連させながら太平洋戦争の開始の背景を理解させる。 ③戦時下の国民生活の崩壊、アジア・太平洋地域への侵略の実態（従軍慰安婦、中国・朝鮮人の強制連行や徴兵制など）について理解させる。 ④沖縄戦、学徒出陣について理解させる。 ⑤広島・長崎への原爆投下について、連合国軍や国内の軍部の動向と関連させ、さらには戦後の日本と国際政治を見通して理解させる。		●		●	△
		第11章 占領下の日本 1. 占領と改革  	①GHQの占領下での民主化・非軍国主義化、経済の混乱状況について理解させる。 ②日本国憲法の制定過程とその意義について、アメリカの対アジア戦略やGHQの動向と関連させながら理解させる。		●		●	△
	10	2. 冷戦の開始と講和 	①冷戦の激化とアジアへの社会主義勢力の浸透、および占領政策の転換に関連させながら理解させる。 ②吉田茂内閣のもとで主権回復・安保条約調印がなされた意味を理解させる。	●	●		●	△
		第12章 高度成長の時代 1. 55年体制 	①デタント、多極化という国際政治の変遷のなかで日本が歩んだ過程を理解させる。 ②55年体制下での保守安定政権、日米同盟の確立と高度経済成長、沖縄復帰に関連させながら理解させる。		●		●	△
		2. 経済復興から高度成長へ  	①アメリカ主導のIMF体制下で、日本が経済復興を遂げていった過程を理解させる。 ②高度成長の功罪について、消費革命・エネルギー革命、四大公害訴訟を中心に理解させる。 ③田中角栄政権以後の日中関係、「小さな政府」化の動きを理解させる。	●	●		●	△
		第13章 激動する世界と日本 1. 経済大国への道  	①ベトナム戦争によるアメリカ経済の悪化、ニクソン＝ショック後のIMF体制の崩壊、石油ショックなど国際経済の動向を理解させる。 ②第1次石油危機を契機に安定成長に転じたことを理解させる。 ③田中角栄政権以後の日中関係、「小さな政府」化の動きを理解させる。	●	●		●	△
				●	●		●	
				●	●		●	
				●	●		●	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか					重視する評価の観点				CHE
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△	
2	10	2. 冷戦の終結と日本社会の動揺  	①冷戦の終結と、それが国際政治や国内政治へ与えた影響について理解させる。 ②55年体制の崩壊の背景を、自民党による長期安定政権による腐敗構造と関連させながら理解させる。 ③現在でも平成不況が続くなか、今後、日本あるいは生徒個人が歩むべき方向についてともに考える。	●	●		●		△
	11	【第3回考査】							
	12	■大学受験へ向けての問題演習	①大学入学共通テストで満点、難関私大で80～90点まで得点できるレベルまで指導する。 ②授業での問題演習と合わせて、個人添削指導により個々のレベルに応じた対応をする。	●	●		●		△
3		【第4回考査】							
	1		③大学入学共通テスト終了後は、国公立前期試験。難関私大用の歴史用語・頻出資料を追加指導する。	●	●		●		
	2		④個々の生徒の受験校の過去問分析から、受験日までのやるべき内容の確認を行い、あわせて個別指導を行う。	●	●		●		

【SDGsの各ターゲットについて】
ちょっとだけ詳しく内容を知りたい方は、アイコンをクリック



【道徳教育について】
高校の道徳教育についてちょっとだけ知りたい方は
アイコンをクリック

道徳

※FSVに接続してる場合のみ

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーしてご使用下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン

道徳

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	地歴・公民科	科目	日本史B			単位	2	単1
対象コース	美術コース		対象クラス	3年	5・6組			
使用教科書	山川出版社 詳説日本史B							
使用副教材	第一学習社 最新日本史図表 三訂版							

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

日本の歴史が、ひとり日本人の自発的・内発的な力によって形成されてきたのではなく、原始・古代・中世においては中国・朝鮮との政治的・文化的関係のなかで、近代・現代史においては国際社会のなかで形成されてきたことを考えていきます。正しい知識や相対的な思考力を身に付け、「歴史をみる眼」（社会的な見方・考方）を持つことによって、昨今の国際情勢の激変、それにともなう日米関係や国内の政治・経済・教育の変化、さらには地域社会の変化に対して、客観的な判断力を持ってもらいたいと思います。なお、主体的・対話的で深い学びを実現するために、生徒の自主性を引き出し、能動的に取り組ませる課題解決型のアクティブ・ラーニングを取り入れた授業も展開していきます。また、SDGsの達成、「持続可能な社会の創り手」の育成、道德教育のため、ESDを行います。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

- ①原始・古代史は、日本の歴史が主に中国・朝鮮との政治的・文化的関係を通して形成されてきたことを学びます。
- ②中世史・近世史は、平安末期に誕生した在地領主制が、やがて集権的な織豊政権・徳川政権（幕藩領主制）へ変化していったことを学びます。
- ③近代史は、後発資本主義国としての日本が歩んだ歴史を、対外戦争や議会政治、産業革命などと関連させて学びます。
- ④現代史は、戦後の冷戦下で、アメリカの国際的な戦略のなかに位置づけられた日本の歴史を、政党政治や国民の民主化運動、高度経済成長などを中心に学びます。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

- ①授業で説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、授業の流れを把握すること。
- ②授業にかかわる部分についてワーク等の掲載図表や授業で配布する諸資料の読解を行うこと。

(2) 家庭

- ①授業で教わった内容の復習を毎日欠かさず行うこと。
- ②各単元毎に問題プリントを宿題として課すので、必ず解答して提出すること。
- ③模擬試験直前に過去問（進研・全統など）を宿題として配付する場合があるので、提出すること。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

- ①定期考査：年4回の定期考査（授業の内容から）。
- ②宿題：問題プリントを各単元ごとに配布するので、解答して提出。
- ③授業への取り組み：積極的な発言、グループでの話し合い・発表、テキストの書き込み・マーカーなど、基礎的な作業。
- ④提出物：定期考査毎に授業用テキストの回収とテスト直しを提出。長期休業中に出されるテーマに沿ったレポートの提出。

評価における定期考査の割合

70 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

日本の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度、また多面的・多角的な考え方や深い理科を通して、日本だけでなく他国の文化を理解・尊重することの大切さを習得しているか。

(2) 思考・判断

日本の歴史の諸事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、相互の関連や現在への継承性などに着目し、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、課題を把握して解決できる力を習得しているか。

(3) 技能・表現

諸資料から日本の歴史に関する様々な情報（資料集・webなど）を適切かつ効果的に調べまとめ、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論し発信できる力を技能を習得しているか。

(4) 知識・理解

日本の歴史に関わる諸事象について基礎的知識を用語として習得するとともに、世界（特にアジア）における地理的条件と関連づけながら総合的にとらえて理解しているか。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHE
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	〇△
1	4	第7章 幕藩体制の展開 1. 幕政の安定	①武断政治から文治主義に幕府の大名統制政策が転換していったことを理解させる。 ②将軍権威の維持と朝廷宥和策の関連性を理解させる				●●	
		2. 経済の発展	①農業や漁業技術の発展により生産力が上がり、近世社会の経済的基盤を形成したことを理解させる。 ②交通・流通、商業組織、貨幣制度の整備により江戸時代の経済が安定期を迎えたことを理解させる。				●●	
		3. 元禄文化	①文治主義により儒学が幕府の保護を受け発展し、様々な学問に影響を与えたことを理解させる。 ②上方町人を中心に、元禄文学である浮世草子・人形浄瑠璃が隆盛を極めたことを理解させる。				●●	
	5	第8章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革 【第1回考査】	①享保から天保にいたる幕政改革を理解させる。 ②改革の背景と三大飢饉を関連させて理解させる。	●		●●	●●	
		2. 宝暦・天明期の文化	①幕藩社会の転換期、動揺期とされる田沼時代に即応した文化・学問について理解させる	●	●		●	
		3. 幕府の衰退と近代への道	①欧米列強の接近と幕府の対応を理解させる。 ②天保の改革後の幕府権力衰退について理解させ	●	●	●●	●●	
		4. 化政文化	①寛政・天保の改革で弾圧を受けながら、化政文学の諸ジャンルが誕生していったことを理解させる。 ②国学、蘭学など実証的学問の成立、各藩の教育、安藤昌益の思想などを理解させる。	●	●	●		
	6	第9章 近代国家の成立 1. 開国と幕末の動乱 【第2回考査】	①日米和親条約と日米修好通商条約の内容と、その後の貿易について理解させる。 ②幕末の政局を、特に長州藩・薩摩藩の動向を中心にして理解させる。		●		●	
		2. 明治維新と富国強兵	①幕府の滅亡から維新政府の成立過程を、廃藩置県・地租改正・徴兵令などに注目しながら理解させる。	●	●	●●	●●	
		3. 立憲国家の成立と日清戦争	①征韓論争後の自由民権運動の流れと、それを抑圧する薩長藩閥政府の動向を理解させる。 ②明治憲法の制定と初期議会について、日清戦争と関連させながら理解させる。	●	●		●	
	7	4. 日露戦争と国際関係	①立憲政友会の成立にいたる藩閥政府と民党の接近について理解させる。 ②日露戦争およびその後の韓国併合と満州地域への進出過程を理解させる。		●		●	
		5. 近代産業の発展	①日清戦争と日露戦争を契機にして起こった産業革命について、軽工業・重工業を明確に区別して理解させる。 ②労働組合や社会主義政党の発展と、それに対する政府の弾圧政策を理解させる。		●		●	
		6. 近代文化の発達	①日清戦争・日露戦争前後の国権論の伸長について理解させる。		●		●	

	 	②教育の国家主義化の流れを段階的に理解させる。	●	●	●
		③明治文学・芸術の各分野について、当時の日本人の精神・思想の変化と関連させながら理解させる。	●	●	●
9	第10章 二つの世界大戦とアジア 1. 第一次世界大戦と日本  	①第一次護憲運動や米騒動に果たした大衆運動、および原内閣の積極政策を理解させる。 ②第一次世界大戦を契機にした中国・ソ連への進出、大戦景気について理解させる。	●	●	●
	2. ワシントン体制 	①ワシントン体制下の幣原協調外交について理解させる。 ②第二次護憲運動以後の政党政治、「憲政の常道」について理解させる。	●	●	●
	3. 市民生活の変容と大衆文化  	①大正デモクラシーを支えた思想・文化について理解させる。 ②大正文学、特に反自然主義やプロレタリア文学について理解させる。	●	●	●
	4. 恐慌の時代 	①大正時代以後の戦後恐慌・震災恐慌・金融恐慌について、段階的に理解させる。 ②協調外交と強硬外交の変遷を、政党政治・軍部の動向と関連させながら理解させる。	●	●	●
	【第3回考査】				

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHE
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	〇△
2	10	5. 軍部の台頭 	①満州事変後の関東軍の暴走、および国内における国家改造運動、国際連盟脱退に関連させながら理解させる。 ②世界恐慌後の高橋是清蔵相の積極財政について理解させる。 ③二・二六事件後の陸軍の勢力拡大について理解させる。	●	●		●	
		6. 第二次世界大戦     	①日中戦争後の中国への進出、総力戦、統制経済について理解させる。 ②ドイツ・イタリアとの同盟とアメリカの経済制裁に関連させながら太平洋戦争の開始の背景を理解させる。 ③戦時下の国民生活の崩壊、アジア・太平洋地域への侵略の実態（従軍慰安婦、中国・朝鮮人の強制連行や徴兵制など）について理解させる。 ④沖縄戦、学徒出陣について理解させる。 ⑤広島・長崎への原爆投下について、連合国軍や国内の軍部の動向と関連させ、さらには戦後の日本と国際政治を見通して理解させる。		●		●	
		第11章 占領下の日本						
		1. 占領と改革  	①GHQの占領下での民主化・非軍国主義化、経済の混乱状況について理解させる。 ②日本国憲法の制定過程とその意義について、アメリカの対アジア戦略やGHQの動向と関連させながら理解させる。		●		●	
		11 2. 冷戦の開始と講和 	①冷戦の激化とアジアへの社会主義勢力の浸透、および占領政策の転換に関連させながら理解させる。 ②吉田茂内閣のもとで主権回復・安保条約調印がなされた意味を理解させる。	●	●		●	
		第12章 高度成長の時代						
		1. 55年体制 	①デタント、多極化という国際政治の変遷のなかで日本が歩んだ過程を理解させる。 ②55年体制下での保守安定政権、日米同盟の確立と高度経済成長、沖縄復帰に関連させながら理解させる。		●		●	
		2. 経済復興から高度成長へ  	①アメリカ主導のIMF体制下で、日本が経済復興を遂げていった過程を理解させる。 ②高度成長の功罪について、消費革命・エネルギー革命、四大公害訴訟を中心に理解させる。 ③田中角栄政権以後の日中関係、「小さな政府」化の動きを理解させる。	●	●		●	
		第13章 激動する世界と日本						
		1. 経済大国への道  	①ベトナム戦争によるアメリカ経済の悪化、ニクソン＝ショック後のIMF体制の崩壊、石油ショックなど国際経済の動向を理解させる。 ②第1次石油危機を契機に安定成長に転じたことを理解させる。 ③田中角栄政権以後の日中関係、「小さな政府」化の動きを理解させる。	●	●		●	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHE
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△
2	12	2. 冷戦の終結と日本社会の動揺	①冷戦の終結と、それが国際政治や国内政治へ与えた影響について理解させる。	●	●		●	
		 	②55年体制の崩壊の背景を、自民党による長期安定政権による腐敗構造と関連させながら理解させる。	●	●		●	
		【第4回考査】	③現在でも平成不況が続くなか、今後、日本あるいは生徒個人が歩むべき方向についてともに考える。	●	●	●	●	
		■大学受験へ向けての問題演習	①大学入学共通テストで満点、難関私大で80～90点まで得点できるレベルまで指導する。	●	●		●	
3	1		②授業での問題演習と合わせて、個人添削指導により個々のレベルに応じた対応をする。	●	●		●	
	2		③大学入学共通テスト終了後は、国公立前期試験。難関私大用の歴史用語・頻出資料を追加指導する。	●	●		●	
			④個々の生徒の受験校の過去問分析から、受験日までのやるべき内容の確認を行い、あわせて個別指導を行う。	●	●		●	

【SDGsの各ターゲットについて】
ちょっとだけ詳しく内容を知りたい方は、アイコンをクリック



【道徳教育について】
高校の道徳教育についてちょっとだけ知りたい方は
アイコンをクリック

道徳

※FSVに接続してる場合のみ

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーしてご使用下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン

道徳

1

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン

